

「原子炉格納容器内部調査技術の開発」

ペDESTアル外側_1階グレーチング上調査（B1調査）

の現地実証試験の実施について

【4月15日時計回りルート調査の概要】

2015年 4月 15日

東京電力株式会社

IRID



東京電力

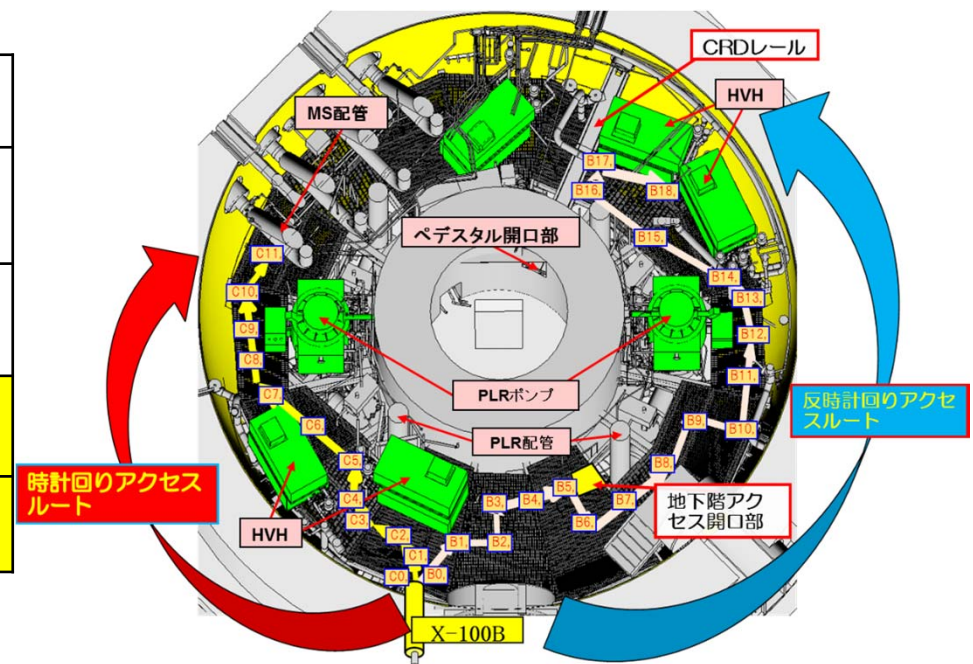
本資料の内容においては、技術研究組合国際廃炉研究開発機構(IRID)の成果を活用しております。

1. 時計回りルート調査について

- 国際廃炉研究開発機構（IRID）にて、「原子炉格納容器内部調査技術の開発」における1号機原子炉格納容器内部調査の実証試験として、2015年4月10日に原子炉格納容器内の1階グレーチング上調査（反時計回りルート）を実施。地下階へのアクセス開口部周囲に干渉物がないことを確認するなど、今後の廃炉作業を行う上で大きな一歩となる情報を得ることができている。
- 原子炉格納容器内部のさらなる情報の収集を目的として、本日（4月15日）午前9時頃から、時計回りルートへのロボットの投入作業を開始することとした。
- 今回の調査の目的は、少しでも多くの原子炉格納容器内の情報を得ることであり、時計回りルートの調査においても落下物など、ロボットの走行に対する障害が予想されるが、走行可能な範囲でできるだけ多くの情報を収集する。
- 1号機原子炉格納容器内部へのロボットの投入は、前人未到の挑戦であり、調査を通じて貴重なデータが得られていることについては、今後の廃炉作業を行う上で大きな一歩だと考えている。今回得られたデータをひとつひとつ積み上げて、廃炉作業に活かしていく。

調査項目 今回の時計回りルートの調査項目は③

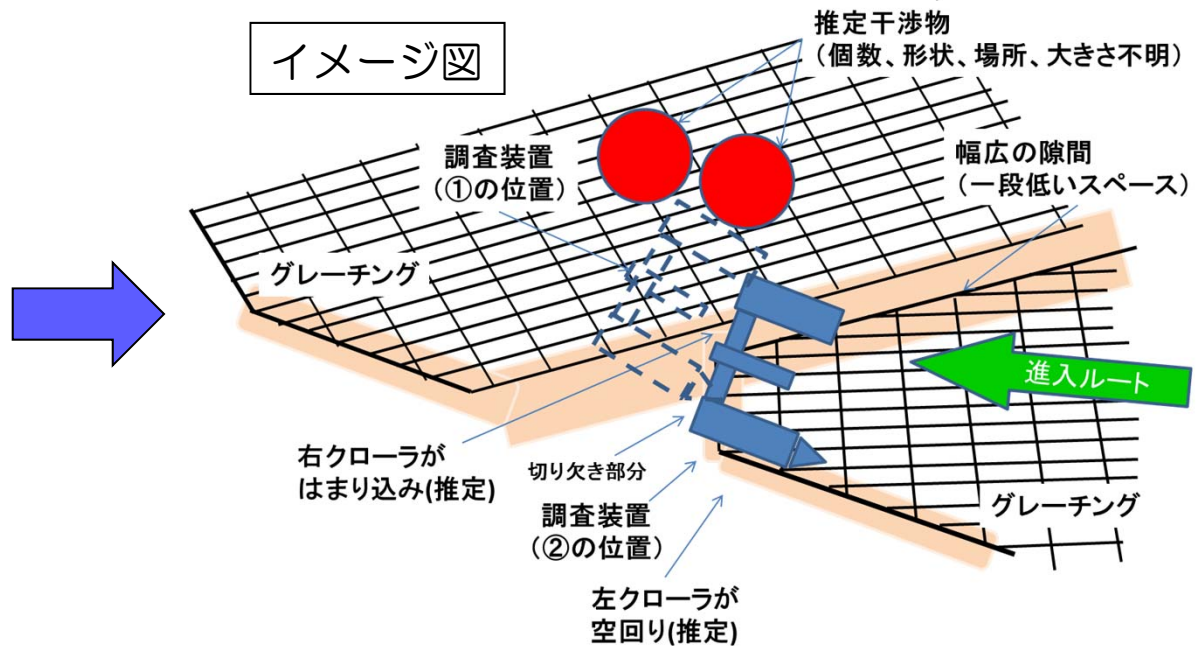
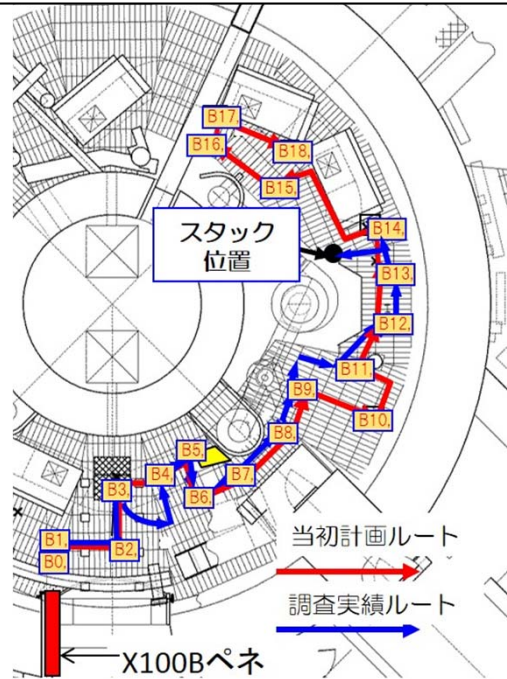
| No. | 目的 | 調査部位 | 調査項目 | 調査装置 |
|-----|-------------------------|------------|----------|--------------|
| | ペDESTル外地下階(B2)調査時の干渉物確認 | 地下階アクセス開口部 | 映像 | CCDカメラ |
| | PCVペDESTル内調査時の干渉物確認 | CRDレール | 映像 | CCDカメラ |
| | 環境の状況確認 | アクセスルート上 | 温度 線量 | 温度計 線量測定器 |
| | 既設構造物の状況確認 | | 映像 | CCDカメラ |



【参考】反時計回りルートにおける調査装置の走行停止の推定原因と対策

【推定原因】

モックアップによる調査等により、狭隘箇所を通過する際にグレーチングの切り欠き部分で、装置左側クローラが脱輪（①）し、その後、脱出を試みるうちにグレーチング接合部の隙間に右側クローラが入り込んだ（②）ことが原因と推定。



【対策】

時計回りルートでの調査時には、落下物・障害物・グレーチングの状態を詳細に確認しながら進む、判断に迷う場合は立ち止まって対応を検討するなど、慎重に作業を実施する。また、反時計回りルートでの調査により、ロボットが当初の想定よりも長い期間（2～3日）、原子炉格納容器内の線量に耐えられるという、貴重な知見も得られているため、現場の状況を慎重に確認しながら、調査時に走行ルート上の障害物等で走行に支障があった場合は立ち止まり、対応方法を協議しながら調査する。